

海
天
不
老



市
海
熱

熱海温泉 の 基礎知識



熱海温泉にようこそ
温泉は熱海が世界に誇る
自然の恵み。

総湧出量約16564リットル/分、熱海温泉はその知名度に恥じない湯量がある温泉郷です。また、42℃以上の高温泉が利用泉の約9割を占め、平均温度は約63℃と、源泉数が500を数える温泉場としては非常に高い数値を誇る全国有数の高温泉地域と言えます。

目次

熱海温泉の基礎知識.....	01
熱海温泉の賢い楽しみ方.....	08
熱海の温泉で美と健康を手に入れましょう.....	14
熱海大好き! 温泉万歳!.....	19
(熱海スポット・クイズ)	
(熱海の歌)	
熱海の歴史空間.....	26
熱海図書館で熱海を知る.....	31
編集後記.....	32



ATAMI

E / 139°04' N / 35°05' 〈市庁所在地〉



初島 E / 139°10'

総面積 61.60Km²
広ぼう 東西 7.52Km
南北 13.90Km



市の色/スカイブルー



市の鳥/カモメ



市の花/ウメ



市の木/アタミザクラ

熱海温泉の起源はおよそ1250年前。海中に沸く熱湯により大きな被害を受けた漁民を助けようと、箱根権現の万巻上人が祈祷して、泉脈を山里に移したのが始まりと伝えられています。

熱海の四大温泉

伊豆湯河原温泉 (泉地区)
万葉集にも詠われた落ち着いた旅館が建ち並ぶ。比較的単純泉が多く、気軽に楽しめるやさしい温泉が多い。

伊豆山温泉
古湯「走り湯」を中心に発展した歴史ある風光明媚な温泉場。含鉄泉や酸性泉など、珍しい泉質にも出会える。

熱海温泉
湯量が豊富で、お肌の良い弱アルカリ泉が多い。美肌効果に優れたメタけい酸含有率が高い温泉も多いのが特長。

南熱海温泉 (多賀・網代地区)
泉温が高く、濃く、良質の温泉が多い地域。メタけい酸含有率が高い温泉が多いことも特長のひとつ。

熱海温泉の実力

🗨️ 総湧出量 16,564 ℓ / 分

🗨️ 地区別温度と湧出量

🗨️ 定期温泉実態調査から

源泉総数	542井	平均温度	63.34℃
調査利用泉	257井	平均湧出量	62.83 ℓ / 分
平均掘削深度	485m	最高温度	98℃

エリア	平均温度	平均湧出量
泉	42.3℃	65.1 ℓ / 分
伊豆山	61.3℃	57.4 ℓ / 分
熱海市街地	66.6℃	60.0 ℓ / 分
上多賀	32.0℃	79.3 ℓ / 分
下多賀	51.9℃	94.4 ℓ / 分
網代	77.8℃	207.3 ℓ / 分

🗨️ 温泉利用の公衆浴場数 / 127件

🗨️ 泉質

塩化物泉	60.2%
硫酸塩泉	27.6%
単純泉	12.2%

(伊豆山温泉に含鉄泉が2本あり)

ATAMI SPA

日本温泉協会(平成18年)、
熱海温泉組合、伊豆山温泉組合(平成20年・21年)調べ

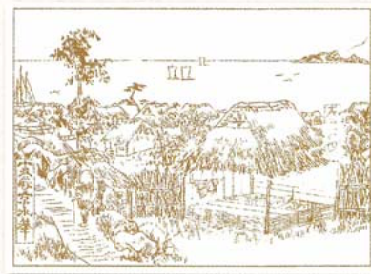
🗨️ 液性

酸性 (pH2~3)	0.0%
弱酸性 (pH3以上~6未満)	3.7%
中性 (pH6以上~7.5未満)	15.0%
弱アルカリ性 (pH7.5以上~8.5未満)	77.2%
アルカリ性 (pH8.5以上)	4.1%

(伊豆山温泉には酸性に近いpH3.2が1本あり)

熱海七湯

熱海温泉が発見された当時、市の中心部では自噴した温泉が地上を一面に走って海に向かっていたと言われています。幾多の地震や津波の影響を受け、いつのまにか特定の場所のみ湧出するようになったのです。この初期のものを「七湯」と言っても存在します。



佐治郎の湯/熱海温泉図彙

大湯

かつて間欠泉で世界でも有名な自噴泉でした。昼夜6回、湯と蒸気を交互に激しい勢いで噴出し、地面が揺れるようだったそうです。明治末頃には止まって関東大震災の時に再び自噴。しかしその後は噴出回数も減少し続け、昭和の初めについて止まってしまいました。

昭和37年、人工的に噴出する間欠泉として整備され、市の文化財として保存し現在に至っています。源泉は今も90度以上と高温で、泉質はナトリウム・カルシウム―塩化物泉。

河原湯

昔は135号線もなく東浜と言った海岸で、まさに河原の石がごろごろしたような場所から湯量豊富に湧き出ていました。湯治客には「大湯」の源泉が主に使われ、他の源泉も限られた家のみが使用を許されていたため、一般庶民が自由に入れたのは「河原湯」だけでした。浴室の屋根をかむきにしたため、その名がついたとも言われています。

小沢の湯

昔の専売公社(現・日本たばこ産業)前あたりを小沢と言ひ、土地の人は「小沢の湯」と呼んでいました。別名「平左衛門の湯」、「法斎湯」。温泉が豊富な地域で、今もこの付近の町内会名は「温泉通り」、それが通称になっているほどです。「小沢の湯」には温泉蒸気で卵を蒸す鍋が設置されていて、観光客に人気のスポットです。

佐治郎の湯

佐治郎という人の邸内にあったから「佐治郎の湯」。明治の頃は源泉が上杉助七の邸内にあり、後に新かど旅館(現・新かどや)の所有になったので「新かどの湯」とも呼ばれます。この湯は火傷にも良いが眼病にも効くなどと評判で、「目の湯」とも言いました。

風呂の湯

坂町高砂屋の庭(今の福島屋旅館の西側)から湧き出ていました。湯気の上騰が盛んで、饅頭を蒸したり酒を温めて販売していたそうです。外傷に良いという評判でした。風呂の湯の1.5メートルほど東には塩分の少ない真水を温めたようなお湯が出ていたことから「水の湯」とも呼ばれました。大内青巒著「豆州熱海誌」(明治11年)には「淡泊無味常水を温めたるもの如し故に水の湯」と記されています。

野中の湯

野中山のふもと、現在の咲見町・中銀ライフケアあたりを野中と言ひ、この一帯は泥の中に湯がブクブク噴いて、杖で突くと湧き出したそうです。また、周辺の土は丹(赤色の土)のようで、壁を塗る材料にもしていました。江戸時代までは湧き出る所が浅く、湯を溜める湯枡を設けなかったそうです。

清左衛門の湯

東海岸町・古屋旅館玄関前にあり、明治まではお湯が昼夜常に湧き出て、絶えることがなかったそうです。昔、農民の清左衛門が馬を走らせ、この湯壺に落ちて焼け死んだのでついた名称です。大きな声で呼べば大いに湧き、小さく呼べば小さく湧いたと言われています。

源頼朝と伊豆山温泉

伊豆山温泉は日本三大古泉の一つといわれる「走り湯」を中心に発展してきました。万葉の昔から、走るがごとくお湯が湧き、海へ注がれていたことから、その名がついたと伝えられます。明治以前は伊豆山神社の神湯として信仰されていました。

「走り湯」の源泉は、奥行5mの洞窟から今も70℃の湯が7000ℓ/日も湧き出ています。

全国に数ある「走湯神社」の総本社という伊豆山神社は、源頼朝と深い関わりがあります。平治の乱後、伊豆国に配流されたときに源氏再興を祈願。また、北条政子との恋の舞台であったことから、現在は縁結びの神社としても参拝者に人気があります。

徳川家康と熱海温泉

歴史上の人物のエピソードに事欠かない熱海ですが、温泉に特筆して関わる人物を一人挙げるとすれば、徳川家康公。1604年、家康が熱海を訪れ、温泉を大いに気に入り、



以来歴代の将軍が「熱海の湯」を江戸城に運ばせました。記録では昼夜兼行で15時間、熱い湯は江戸城に着くころにちょうどいい湯加減になったといえます。その真偽のほどは定かではありませんが、御汲湯おくみゆの道中は「熱海よいとこの丸たてて、御本丸へとお湯は行く」と唄われたほどです。江戸でも評判のお湯でした。

現在も毎年「湯前神社」の秋の例大祭には、お湯を運んだ故事を再現したパレードが行われ、また「湯汲みレース」が湯まつりの人気イベントになっています。



湯前神社

熱海温泉の守り神として少彦名命すくなひこなのみことが祀られています。天平膳宝元年(794年)、少彦名命が小童に神託し、当地の温泉の効能を示したと言われ、里人が祠ほこらを建て、これを祀ったのが神社の始まりです。

鳥居の20mほどの所に熱海温泉最初の元湯(大湯)があり、その前に祀られたから湯前神社と名付けられたそうです。

熱海で始まった近代温泉の歴史 “熱海が一番”ものがたり



熱海は自然環境に恵まれ、源泉数や湧出量も日本屈指日本の歴史を動かし健康に関心の高かった徳川家康に選ばれた温泉としても知られ、「日本で最初」「日本で一番」がいろいろあります。

①初めての西洋式温泉分析報告書の存在——明治7年(1874年)。明治8年には草津、伊香保、四万温泉で分析が報告されています。

②温泉に関する取締規制の制定——明治16年6月
* 県としても静岡県が初めです。

③温泉療養センター(鳴瀧館)設立——明治18年 我が国初めての温泉療養センターで、政治家・岩倉具視が熱海で療養したことが発端となり、明治18年、内務省衛生局長の長与専斎が主体となり作られました。ドイツの気圧吸入器が設置され、当時としては最新式の医療施設でした。

医師も常勤し、結核に良いと言われ、多くの結核患者が熱海に集まりましたが大正9年に焼失しました。

④熱海御用邸の建設——明治22年 体の弱かった大正天皇のために、今の市役所のところ建てられました。御用邸としては横浜(明治18年)、神戸(明治19年)に次ぐ3番目。温泉地としては一番早い建立で、翌年には伊香保温泉に御用邸ができました。

⑤源泉に関する権利——昭和38年の自治省告示による温泉指数は評価が5点満点 温泉指数は全国の温泉地のうち代表6か所を定め、それ以外は各都道府県知事が6か所を参考で定めることとされています。伊東と別府は3、越後湯沢は1とあり、草津は6か所に含まれなかったが1.5の評価。熱海は5なので、日本一のお墨付きをいただいたこととなります。この制度は平成12年に客観的算定が困難なこともあり、見直されました。

温泉の基本その2

▶入浴スタイル

温泉の利用法は様々で、疲労を回復させる「休養」、健康を保持し病気を予防する「保養」、病気の治療をする「療養」の3つに分類することができ、これを「温泉の三養」と呼びます。では、なぜ温泉はカラダにいいと言われるのでしょうか。

温熱効果、静水圧、浮力・粘性、成分、その他(環境・気候など)の作用が考えられます。また、日本人は温泉との長いつきあいの中で、独特の入浴スタイルも生み出しています。それは「全身浴」「部分浴」「特殊な入浴」の3つに分類することができます。

全身浴：文字通り全身を温泉に浸らせますが、この部類で「半座位浴」と「寝湯」は心臓への負担を軽減し、心身の安定や睡眠障害を助けます。

部分浴：該当する部分によって「かぶり湯」「腰湯」「足浴」「歩行浴」などがあります。おなじみの「足湯」も、足を温めただけで全身温かい血液が循環しますので、冷え性などにとっても効果的です。

特殊な入浴：温泉運動浴を除いて湯に入らない方法で、砂風呂、泥湯、温泉蒸気浴(蒸し風呂)、温泉熱気浴(岩盤浴)などです。

▶湯温別入浴

温度により、高温浴(43℃以上・短時間入浴)、温浴(41℃前後)、微温浴(36～38℃に長時間入浴)、寒冷浴(7～20℃)と4段階に分けることができます。旅館などほとんどの温泉利用施設が「温浴」を採用しています。高血圧症や心臓疾患の人は高温浴に、循環器に疾患のある人は寒冷浴に、十分注意する必要があります。

▶入浴上の注意

健康な人でも温泉には1日3回くらい、熱めのお湯なら10分以内、ぬるめのお湯なら30分くらいが適当と言われています。

空腹時や食後すぐの入浴は避ける。飲酒直後はもつてのほかです。入浴中は知らぬ間に汗をかきますので、水分を充分に取りましょう。また、高血圧や心臓病などの持病がある方は特に注意してください。お風呂の事故は交通事故より多く発生しています。日常の入浴はもちろんのこと、特に旅先の温泉では、くれぐれも注意事項を了解した上でお楽しみください。

温泉の基本その1

さて、熱海温泉の実力を知っていただいたところで、一般的な温泉についても学習しましょう。我が国には約3000か所の温泉地があり、多くの方が「温泉」を利用しています。温泉を愛する皆さまには、熱海だけでなく全国の温泉巡りを楽しんでいただきたいと思います。

▶温泉の定義

日本では昭和23年に制定された「温泉法」により、温泉とは「地中から湧出する温水、鉱水及び水蒸気その他のガス(炭化水素を主成分とする天然ガスを除く)で、表1に掲げる温度、又は物質を有するもの」と定められています。

表1

1. 温度(温泉源から採取されるとき温度) 摂氏25度以上
2. 物質(以下に掲げるもののうち、いずれか一つ)

■物質名	■含有量(1kg中)
溶存物質(ガス性のものを除く) 総量	1,000mg以上
遊離炭酸(CO ₂)	250mg以上
リチウムイオン(Li ⁺)	1mg以上
ストロンチウムイオン(Sr ²⁺)	10mg以上
バリウムイオン(Ba ²⁺)	5mg以上
総鉄イオン(Fe ²⁺ , Fe ³⁺)	10mg以上
第一マンガンイオン(Mn ²⁺)	10mg以上
水素イオン(H ⁺)	1mg以上
臭素イオン(Br ⁻)	5mg以上
ヨ素イオン(I ⁻)	1mg以上
フッ素イオン(F ⁻)	2mg以上
ヒドロヒ酸イオン(HAsO ₄ ²⁻)	1.3mg以上
メタ亜ヒ酸(HAsO ₂)	1mg以上
総硫黄(S)	1mg以上
メタほう酸(HBO ₂)	5mg以上
メタけい酸(H ₂ SiO ₃)	50mg以上
重炭酸ソーダ(NaHCO ₃)	340mg以上
ラドン(Rn)	20(百億分の1キュリー単位)以上
ラジウム塩(Raとして)	1億分の1mg以上

▶温泉の種類と泉質

温泉の種類は泉質で分けるのが一般的です。例えば熱海温泉の泉質に多い「塩化物泉」は「熱の湯」「温まりの湯」などと呼ばれ体が温まる特長があり、「硫酸塩泉」は「傷の湯」「脳卒中の湯」などと呼ばれ、その成分に沈静作用があり、高血圧の人によいと言われます。種類による違いを肌で感じることもできるので、ぜひ気にしながらお入りください。泉質や適応症などが書かれた「温泉分析書」は温泉施設の目立つところに掲示することになっているので確認できます。分析書の見方は石川先生の「熱海温泉の賢い楽しみ方」(P8)を参照してください。

熱海温泉

賢い楽しみ方

石川 理夫

泉質が多彩で楽しめる熱海温泉

みなさん、熱海の温泉といえば、「すべて食塩泉なんですよ」と思っていますか。旧泉質名で食塩泉、新泉質名でナトリウム―塩化物泉というのは、温泉の代表的な泉質のひとつ。なめると塩味を感じるように、塩分（ナトリウム塩化物）が主な成分の泉質です。

ところが実際には、熱海温泉の泉質は前頁の「熱海温泉の基礎知識」で紹介されたように、ナトリウム―塩化物泉（食塩泉）だけではありません。新泉質名での表示にもとづく大分類で塩化物泉、硫酸塩泉、単純温泉の3種類、それにアルカリ性単純温泉を加えると、なんと4種類もの泉質の温泉が熱海にはそろっているのです。

◎4種類の泉質を探す湯巡りの楽しみ

それぞれの泉質は、山手か海岸寄りかといった温泉街で

泉を見つけることができるでしょう。

◎カルシウムイオンたっぷりの塩化物泉

それでは熱海温泉で体験できるそれぞれの泉質の特色、味わい方を順に紹介しましょう。

まずは最も代表的な泉質から。ひと口に塩化物泉といっても、じつに多彩です。具体的な泉質名でいうと、①ナトリウム・カルシウム―塩化物泉、②カルシウム・ナトリウム―塩化物泉、③ナトリウム・カルシウム―塩化物・硫酸塩泉、④カルシウム・ナトリウム―塩化物・硫酸塩泉の4種類が含まれています。

4つの泉質の違いは、温泉に陽イオンと陰イオンに分かれてイオン状態で溶けているミネラル成分中、陽イオンではナトリウムイオンとカルシウムイオンのどちらが多いかという点と、陰イオンでは硫酸イオンを主成分にした硫酸塩泉の特色を併せ持っているかという、二つの要素の組み合わせから生まれます。

そして熱海の場合、ナトリウムイオンが陽イオンの主成分となつて最も一般的な食塩泉（ナトリウム―塩化物泉）だけでなく、カルシウムイオンのほうが主成分となるカルシウム・ナトリウム―塩化物泉が多く見られることと、硫酸塩泉の特色を併せ持つ塩化物泉が多いのも特色です。これは海水の成分構成とは大きく異なる点です。

の位置や、熱海の四大温泉エリアに応じて分布にも傾向が見られます。それが宿を選ぶ際のポイントの一つとなり、温泉街散策や湯巡りの楽しみとなってきます。

その中で最も多いのは、約6割を占める塩化物泉です。塩化物泉は熱海駅前から海岸部にかけての温泉街中心部、そして網代など南熱海温泉エリアに多く湧出しています。

二番目に多いのは、3割弱を占める硫酸塩泉です。硫酸塩泉は熱海駅や来宮駅より山手側に、そして伊豆湯河原温泉エリアと伊豆山温泉エリアに多く湧出しています。

単純温泉とアルカリ性単純温泉は両方合わせて約1割と数がぐっと少ないため、熱海温泉のいわばレア物を探し出して出会えたときの喜びもひときわ。来宮駅より海岸部の温泉街や山手方面に点在しています。

それぞれの泉質の温泉は、入浴したり飲泉してみると、湯の個性、持ち味がまったく違ったり、微妙に異なることに気づきます。温泉は人と同じように「十湯十色」で、皆いとおしい存在。地球の恵みなんです。

温泉地に出かける喜びは、湯に癒され、温泉街や温泉情緒に安らぎ、日常を離れた解放感を味わえることにあります。さらに温泉（源泉）の個性、持ち味を五感全体で味わい感じることができれば、楽しみも倍加します。熱海で多様な泉質、特色のある温泉を体験すれば、自分好みの温

さて、カルシウムイオンは皮膚の新しい角質層の形成を促し、硫酸塩泉の主成分の硫酸イオンには皮膚の真皮の弾力繊維を強化してしわを防ぐ働きが注目されています。塩化物泉は体がよく温まり、保温効果も高いことは知られていますね。それだけでなく、このように傷や術後の回復、美肌を保つためにもおすすめののが熱海の塩化物泉です。

◎鎮静効果に優れた硫酸塩泉

熱海の硫酸塩泉も多彩です。硫酸塩泉は陰イオンの主成分は硫酸イオンで、副成分として塩化物イオンが入るかどうかが、陽イオンではカルシウムイオンとナトリウムイオンのどちらが主成分か、という二つの要素の組み合わせから、熱海には①カルシウム―硫酸塩泉（石膏泉）、②カルシウム・ナトリウム―硫酸塩・塩化物泉（含芒硝・食塩―石膏泉）、③ナトリウム・カルシウム―硫酸塩・塩化物泉（含石膏・食塩―芒硝泉）の3種類の泉質があります。

硫酸塩泉系の3つの泉質に共通した特色は、湯はしつとりと無色澄明無臭なこと。塩分などの含有量によっては、浴槽の湯が淡黄色に色づくことがあります。

入浴すると、心身がより安らぐように感じられます。カルシウム―硫酸塩泉（石膏泉）のお湯の中では、肌が白く透きとおって見えるのも女性の方にはうれしいかぎり。塩化物泉でカルシウムイオンと硫酸イオンの働きを紹介した

ように、石膏泉も美肌に貢献します。さらに石膏泉は昔は「傷の湯」といわれたように、カルシウムイオンの働きからも傷の回復が早かったり、鎮静効果があるようです。

また、硫酸塩泉は飲泉に向いています。とくに慢性の便秘や糖尿病、痛風、肥満症など生活習慣病全般に飲用の効能がうたわれていますから、お悩みの方は硫酸塩泉の源泉を飲用できる所を選ぶといいでしょう。

◎単純温泉とアルカリ性単純温泉

熱海の泉質では少数派ですが、温泉宿によっては塩化物泉と単純温泉の2つの泉質を併せ持つ所があります。どちらも楽しめるなんてぜひたくですよね。

単純温泉という名前から、成分が乏しくてぱっとしない温泉みたいに誤解されがちです。これは温泉水1キログラム中に溶けているミネラル成分が1000ミリグラム(1グラム)に満たないというだけで、むしろ有効成分を幅広く含んでいる場合が多いのです。全国の名湯の多くは単純温泉です。単純温泉はだいたい無色透明無味無臭で、肌ざわりが良く、だれもが入浴、飲泉をしやすいのが特徴です。単純温泉のうちで、pH(ペーハー、水素イオン濃度)8.5以上のアルカリ性を示すものをアルカリ性単純温泉といいます。湯に浸かると、肌がなめらかになるすべすべ感するのが特徴です。皮膚の古い角質を落とすいわゆる石け

つな源泉が注がれ、かけ流しになっていきます。熱海ではさまざまな泉質の源泉を存分に味わってください。

温泉分析書を見て自分好みの温泉を選ぶ

熱海温泉が泉質、成分、源泉共に豊かなことがわかりました。その多様な温泉の中から自分の肌に合った、好みの温泉を選びたいときに、大いに参考になるのが脱衣場などに掲げられた「温泉分析書」です。そこで、温泉選びにも役立つ温泉分析書の見方のポイントを紹介しましょう。

◎温泉情報の元は温泉分析書

すべての温泉(源泉)は温泉法の定め(第18条)で、登録分析機関によって成分分析を行い、温泉分析書を作ります。それにもとづき温泉事業者は泉質、成分に加え、加水や加温、循環ろ過の有無など「入浴や飲用に必要な情報」を掲示しなければなりません。温泉分析書は見方のこつをつかむと、入浴前から湯の泉質や持ち味を予想できてしまうほど。温泉情報の宝庫、おおもとなのです。

ところが実際には、温泉分析書の内容のごく一部だけを抜粋した「揭示証」に置き代えている所が多くなっています。監督官庁が認めたからです。利用者は困ります。だから温泉分析書そのまま掲示した温泉事業者こそ、温泉に自信、誇りを持っている証左といえるでしょう。

ん効果があり、美肌湯の一つに挙げられます。

源泉も豊富な熱海温泉

地上に湧き出てきた温泉水そのものを「源泉」といいます。湯元(源泉)が違えば、源泉の成分や持ち味も微妙に違ってきます。近年、利用者に源泉志向が目立つようになりました。湯治にはもちろん、できるだけ新鮮な源泉を体験することは、温泉の楽しみ方の基本です。

◎自家源泉を市営源泉がバックアップ

熱海温泉の強みは、なんといっても源泉の総湧出量が豊富なこと(熱海温泉の基礎知識参照)。毎分1万6000リットルに及ぶ総湧出量は、全国の温泉地(郷)で10位にランクされています。

大きな観光温泉地では、必要な湯量をとすれば源泉だけが足りない場合もあります。熱海では温泉宿が各自有する自家源泉に加えて、豊富な湯量を持つ市営源泉がバックアップ。自家源泉と市営源泉の両方を用意している温泉宿・施設が少なくありません。

熱海では市営源泉を引いて自宅で温泉を楽しんでいる市民も多いのです。源泉との出会いの場としては、温泉街の路地にたたくずむ共同浴場が加わります。浴槽が広くない分、源泉はたっぷり。蛇口(湯口)をひねると、どどどとホッ

◎温泉分析書の温泉情報のジャンル

温泉分析書には数値などがいろいろ記載されていて、最初は見づらいつと思えます。でも整理すると、大まかに次の3つの温泉情報ジャンルに分けられます。

- 1 温泉(源泉)の湧出にかかわる情報
(a)湧出地、(b)源泉名、(c)湧出量、(d)湧出形態
- 2 温泉の泉温や特徴にかかわる情報
(a)源泉の泉温、(b)知覚的試験の結果、(c)PH値
- 3 温泉の泉質、成分にかかわる情報
(a)成分、分量及び組成、(b)溶存物質質量、(c)泉質

3つのジャンルは一般にはすべて温泉の賢い楽しみ方、選び方にかかわってきます。ただ、熱海温泉に関しては、第一のジャンルと第二のジャンルのうち(a)泉温の情報はそれほど気にしないでいいでしょう。

というのは、熱海温泉は平均泉温63度。日本でも際だって高温泉に恵まれています。加温の必要性より、どうやって熱い源泉を入浴適温まで冷ますかが重要なくらい。また、第一のジャンルでも、熱海温泉の湧出形態は基本的に掘削(ボーリング)泉。源泉の数がたくさんあり、全体的に湧出量が豊富なこともわかっていますから、それでは熱海の温泉分析書を見本に説明しましょう。

温泉分析書

①**源泉名と湧出地**：すべての源泉に名前が付く。自家源泉なら、名前はより個性的で、宿・施設の所在地と湧出地は同一か近くになる。「混合泉」は市営源泉を共通する泉質や地区単位で集めた源泉のこと。

②**泉温**：源泉の泉温。摂氏42度以上を「高温泉」、25度未満なら「冷鉱泉」という

③**湧出量（と湧出形態）**：市営源泉では見本に記載していない「湧出形態」と共に別紙記載。湧出形態は自然湧出、掘削自噴、動力揚湯の3つ。熱海温泉は掘削した動力揚湯泉が基本

④**水素イオン濃度（pH値）**：液性が酸性（pH3未満）か弱酸性（pH3以上6未満）か中性（pH6以上7.5未満）か弱アルカリ性（pH7.5以上8.5未満）かアルカリ性（pH8.5以上）かわかる。酸性とアルカリ性は泉質にもかかわる（酸性泉、アルカリ性単純温泉）。湯治目的や湯の好みに重要な要素

⑤**知覚的試験**：「弱塩味」とあり、塩分を含む。単純温泉や硫酸塩泉ではほぼ「無味」。強い塩化物泉（強食塩泉）や硫酸塩泉は「微黄色」など色づく場合がある。湯の色や湯の香の有無は好みにかかわる

⑥**試料（温泉水）1キログラム中の成分、分量及び組成**：どんな成分が含まれるか、またその内容、分量、組成から泉質が決まる。遊離成分（メタケイ酸、メタほう酸の非解離成分とガス成分）以外は+の電気を帯びてイオン状態で溶けている。そこで陽イオン（微量成分はここに含む場合も）と陰イオン、遊離成分の3欄に分けて記す

⑦**陰イオンの最大ミリバル値**：さまざまな塩類が温泉水1キログラム中に1グラム以上溶けている、つまり⑩の**溶存物質**の合計が1グラム以上あるものを塩類泉と呼び、陰イオンのミリバル値が最大の主成分によって、塩化物泉、硫酸塩泉、炭酸水素塩泉の3つに大別。見本は塩素イオンが最大なので塩化物泉となる。最大が⑧の**硫酸イオン**なら硫酸塩泉、炭酸水素イオンなら炭酸水素塩泉となる

⑨**陽イオンの主成分**：3つの塩類泉は陽イオンの主成分で泉質が分けられる。見本ではナトリウムイオンなので、泉質はナトリウム-塩化物泉となるが、次の副成分があれば泉質はさらに細別される

⑩**陽イオンと陰イオンの副成分**：陽イオンと陰イオンで20%以上のミリバル%値を示すものを副成分として泉質に表示。見本では陽イオンのカルシウムイオンが該当し、正式な泉質はナトリウム・カルシウム-塩化物泉となる

⑫**泉質**：⑩のように泉質を表示。温泉の浸透圧、②の液性、④の泉温により「低張性・弱アルカリ性・高温泉」と付記

⑬⑭⑮**その他の成分**：⑬の鉄分は一定量以上で湯の色の変化、泉質（鉄泉）にかかわる。⑭のメタケイ酸が多いと、湯の色や美肌作用にかかわることも。⑮の溶存ガスは、見本にない遊離硫化水素と共に熱海温泉にはほとんどない

1. 申請者 ① 熱海市中央町1番1号 熱海市長 ○○○○
2. 源泉名及び湧出地 又は採水地混合泉
源泉名及び湧出地は別紙記載
採水地熱海市中央町866-1 市街地8号貯湯槽

3. 湧出地における調査及び試験成績
(1) 調査及び試験者 財団法人静岡県生活科学検査センター
(2) 調査及び試験年月日 平成13年2月15日
(3) 泉温 58.1℃ ②（調査時の気温6.0℃）
(4) 知覚的試験 湧出状況及び湧出量は別紙記載
殆ど無色、透明、弱塩味、無臭、ガス発生なし
(5) 水素イオン濃度（pH値） 8.0 ④

4. 試験室における試験成績
(1) 試験者 財団法人静岡県生活科学検査センター
(2) 分析終了年月日 平成13年3月7日
(3) 知覚的試験 殆ど無色、透明、弱塩味、無臭 ⑤
(4) 密度 1.0024 (20℃/4℃)
(5) 水素イオン濃度（pH値） 7.98
(6) 蒸発残留物 5.557g/kg (180℃)

5. 試料kg中の成分、分量及び組成 ⑥

(1) 陽イオン

成分	ミリグラム (mg/kg)	ミリバル (mval/kg)	ミリバル% (mval%)
ナトリウムイオン ⑨ Na+	1067.0	46.41	56.66 ③
カリウムイオン K+	104.7	2.68	3.27
マグネシウムイオン Mg++	1.5	0.12	0.15
カルシウムイオン ⑩ Ca++	655.4	32.70	39.92 ⑩
鉄(II)イオン ⑬ Fe++	0.1 ⑬	0.00	0.00
陽イオン計	1829.0	81.91	100.00

(2) 陰イオン

成分	ミリグラム (mg/kg)	ミリバル (mval/kg)	ミリバル% (mval%)
塩素イオン ⑦ Cl-	2688.0	75.82	92.83 ⑦
臭素イオン Br-	4.1	0.05	0.06
ヨウ素イオン I-	0.1	0.00	0.00
硫酸イオン ⑧ SO4-	257.4	5.36	6.56
リン酸水素イオン HPO4-	0.2	0.00	0.00
炭酸水素イオン ⑮ HCO3-	27.7	0.45	0.55
陰イオン計	2978.0	81.68	100.00

(3) 遊離成分
非解離成分

成分	ミリグラム (mg/kg)	ミリモル (mmol/kg)
メタ亜ヒ素 HAcO2 ④	0.2	0.00
メタケイ酸 H2SiO3	109.7	1.40
メタホウ酸 HBO2	10.2	0.23
非解離成分計	120.1	1.63

(4) その他微量成分

成分	ミリグラム (mg/kg)
アルミニウムイオン Al+++	0.03
マンガニンイオン Mn+++	0.02
水酸イオン OH-	0.017
鉄(III)イオン Fe+++	<0.05
銅イオン Cu++	<0.01

溶存物質（ガス性のものを除く） 4.926 g/kg ⑪
溶存ガス成分 ⑮

成分	ミリグラム (mg/kg)	ミリモル (mmol/)
遊離二酸化炭素 CO2	9.7	0.22
溶存ガス成分計	9.7	0.22

成分総計 4.936 g/kg

6. 泉質
ナトリウム・カルシウム-塩化物温泉（低張性・弱アルカリ性・高温泉） ⑫

7. 禁忌症、適応症等は別表による。

石川理夫（いしかわみちお）

温泉評論家、プランナー。日本温泉地域学会副会長。

著書に「温泉法則」（集英社）「温泉巡礼」（PHP 研究所）など。

熱海の温泉で

美と健康を

手に入れましょう

石井 宏子

わたしたちは、なぜ温泉に入ると幸せになるのでしょうか。温泉に入浴するということは、自然の恵みをいただくということ。日頃わたしたちは忘れそうになりますが、地球は生きています。その生きている地球の中から生まれ出る温泉は大地のエネルギーをしっかりと抱き込んでいます。だからこそ、わたしたちは温泉で元気をもらえるのだと思います。温泉に入るとは地球との対話だとわたしは思っています。温泉は地球がくれた天然のビューティツール、温泉には美と健康をサポートする要素がたくさんあります。さらに温泉の特性を知り、正しく入れば、クレン

ジング、保湿、デトックスなどさまざまな美容サポートのツールにもなってくれるのです。もちろん温泉旅には、極上の幸せがたくさんあります。海の幸、山の幸をいただく食事、日常を離れてゆったりと流れる時間、心身が癒される海の風景や波の調べ。熱海の旅をたっぷり楽しみながら、温泉の美容力をフル活用して美と健康を手に入れましょう。

温泉の三大美容要素と熱海の温泉

古くから「三大美人泉質」と呼ばれている泉質が「炭酸水素塩泉」「硫酸塩泉」「硫黄泉」です。ここには、美と健康に欠かせない大切な3つの要素が隠されていました。

①「落とす」……ナトリウム―炭酸水素塩泉（重曹泉）は、肌の汚れや古い角質を落としてくれる石けんのような作用が期待できる温泉、お肌がスベスベつるつるになります。pH8.5以上のアルカリ性の温泉も同じような作用が期待できます。

②「めぐる」……硫黄泉と炭酸ガスを豊富に含んだ二酸化炭素泉は、血行を促進して体のめぐりがよくなります。血の流れがよくなれば、酸素や栄養の供給も順調になり、滞りがちな老廃物が運び出されて、美と健康を内側からサポートします。

③「補給」……ナトリウム―硫酸塩泉（芒硝泉）はしっかりと美肌のサポーター、やわらかな感触が特徴の温泉で、ゆつくりと体を温め、肌の潤いをサポートしてしっとりツヤ肌美人を目指す人におすすめの泉質です。塩化物泉は、塩の成分が薄いヴェールのように肌を包み、肌の水分や熱を逃げにくくしてくれますので、湯あがり後も「しっとり」「ほかほか」が持続します。

熱海エリアの温泉の主な泉質は、塩化物泉と硫酸塩泉。よく温まって「ほかほか」「しっとり」が持続するツヤ肌美人を目指す温泉ということですね。

きれいになる温泉の入り方

1 水分補給は入浴の前にもたっぷり

温泉地でお宿にチェックインすると、お茶とお菓子がでてきます。それは、いついたかくのがいいのでしょうか？



旅をして温泉地に到着した時、わたしたちの体はとても疲れています。楽しくて気持ちが高ぶっているので元気いっぱいのように思えるのですが、電車や車での移動は意外に体力を消耗し、同じ姿勢でずっと座っていたので、到着した時には体はあまりいい状態とはいえないのです。そんな

状態で、そのまま温泉へ直行なんていうのは、実はとても危険なことです。ですから、「お茶とお菓子」で、水分とエネルギーを補給する。これはみなさんを助ける値千金の贈り物なのです。温泉の恵みをいい体調で取り入れるために、入浴前に血の流れをサラサラにしておきましょう。そのためにも、入浴する15分くらい前に、水やお茶をたっぷり飲み、水分補給をしましょう。

2 かけ湯はきれいの第一歩

「かけ湯」には大きく2つの意味があります。まず、体の汚れを落とすこと。これは温泉に入るための大切なマナーです。自然の恵みの温泉をできるだけフレッシュな状態で入るために、



後の人のことも考えて自分の汗や汚れを落としてから湯船に入るとするのが常識です。もう一つの大切な意味は、ウォーミングアップです。温泉は有効成分を含んでいて、体にとっては一ひとつの刺激になります。そのある種の刺激を与えることで、体の免疫機能が活性化されたりするので、その刺激に対して、まず体を慣らすというのが大切です。かけ湯は温泉に体を慣らす大切な準備運動です。たと

えばシャワーで体を流したとしても、これから入る湯船の温泉で「かけ湯」をしてから入るようにしましょう。

●体いい「かけ湯」の仕方

温泉を桶にくんで、心臓に遠い方から上にむかってたっぷりかけましょう。たとえば、右足↓左足↓右ひざ↓左ひざ↓右腰↓左腰↓おなか↓右肩↓左肩↓背中、これで10杯です。

3 温泉マーク入浴法

お風呂での健康法というところ、ぬるめのお湯でじっくり半身浴。こうしてじっくりと汗を出しましょうというのを聞いたことがあるでしょう。確かにこれもおすすめの入浴法です。ぬるめのお湯(37〜40℃)は副交感神経を刺激し、リラクセスします。胃酸の分泌を活発にして消化を助けまします。ぬるめのお湯にゆっくりと入ることで、血圧を下げよく眠ることが出来ます。しかしながら温泉地では、ほとんどの場合41〜42℃の熱めの温度に調整されていて、肩まで入れる深さになっていいる湯船になっています。これは、日本人が一番気持ちよいく感じの入浴スタイルとして愛されてきました。では、このような場合には、どうすれば「体いい入浴」ができるのでしょうか？



温泉のマークを思い出しましょう。これが美と健康の入浴法の目安です。温泉は想像以上によくあたたまり、早く長く作用します。温泉地ではじんわりと額が汗ばんできたら湯船からあがるという「ほどほど入浴」を3回くらいに分けて入浴する「分割浴」がおすすめです。特に42℃以上の熱めの温泉ではこのように「分割」して入浴すると、一度で長く温まるよりも体の芯まで温まることができ、血の流れのいい状態が持続します。

4 美と健康の温泉入浴法

①最初の入浴は5分くらいでほどほどに
かけ湯をしたら湯尻からゆっくりと入りましょう。湯尻というのは、温泉が湯船に注がれている場所から一番遠いところですよ。湯船全体の中で、比較的温度も低く、温泉もまろやかです。入り方は足から順番に少しずつです。たとえば、湯船に腰掛けて足だけ入れて10秒、次に一段降りて腰までつかり10秒、それから肩まで入りましょう。温泉に入ると水圧がかかります。こうして足から徐々に入れば、その水圧を利用して天然のマッサージが行えることにな

り、血流やリンパの流れをサポートしてくれます。5分は短いように思うかもしれませんが、温泉はその成分から温まり作用が高いので、案外5分は長いと感じるかもしれません。目安としては、時間にこだわらなくても、うっすらと汗ばんできたかなと思ったらあがり時と考えるください。あがる時も、肩まで↓腰まで↓足までと、入る時と逆に徐々にあがると立ちくらみなどを防ぐことができます。

②休憩

洗い場のある大浴場ならば、髪を洗う、洗顔するなどインターバルをいれましょう。自然の中の露天風呂ならば、湯船の淵に上がってのんびりと景色をながめたりしてすごしましょう。あるいは、一度お部屋へ戻って休憩してもかまいません。

③2度目の入浴はちょっとゆったり

2回目の入浴は体をあたためるように、ゆったりと入ってみましょう。広々とした湯船で手足をのばして、ゆっくりとした動作でストレッチなどをするのもおすすめです。ぼーっとするのもおすすめです。せつかく温泉にきたので

すから、五感を意識してまわりの環境を満喫してみてください。海の音の先に浜千鳥の小さな声が聞こえるかもしれません。木々をそよぐ風の音は、緑のいい香りを運んでくれます。景色を眺めたり、自然の音を聴いたり、会話を楽しんだり、星を数えたり、あなたなりの発見をしてください。五感を刺激することで脳内ホルモンが活性化し、いきいきと元気がわいてきます。この時も、じんわりと額に汗がでてきたら上がり時です。汗が流れ落ちるほど温泉の中に入ってはいけません。温泉の作用は上がってから3時間持続するといわれています。入りすぎはのぼせや湯あたりやの元になりますから、温泉も「腹八分目」の気持ちで入りましょう。

●温泉地ならではの楽しみ方

温泉には温泉地でこそ試していただきたい楽しみ方もあります。たとえば、湯船の広さを利用しての「浮遊浴」。頭を湯船のふちにちょこんと乗せて、両手両足を大の字に解放する入り方です。ふわ〜と体が軽くなってストレスでカチカチになっていたカラダも解放されて、心までもすーっと楽になります。入浴の前後にたっぷり水分を補給して、温泉で心と体をゆったりと解放すれば、至福のリラクゼーションとなることでしょう。



④寝る前の入浴は軽めにさっと。

温泉分析書と一緒に掲げてある入浴の注意には、1日目の入浴は1回〜2回程度にしましょうと書いてあります。それほど、温泉の作用は強いのです。ですから、到着して入浴をしたいけど、夜寝る前もまた入りたいという人は、3度目の入浴を夜にとっておきましょう。この場合あまり長湯せず、さっと温まって上がりましょう。

⑤湯あがり後は水分補給&休息

温泉に入ると、体の芯まであたたまりたくさんの汗をかきます。湯あがり後も発汗は続きますのでしっかりと水分補給をしましょう。また、温泉入浴は体力も使いますので、湯あがり後30分くらいは、のんびりゆったりすごして体を休めましょう。お部屋の畳の上で、大の字になって休憩、というのも背筋が伸びて、全身リラククスできますのでおすすめです。

癒されてきれいになる温泉旅のヒント

温泉旅では美と健康につながる「いい刺激」がたくさんあります。おすすめしたいキーワードは「体感」。温泉旅で出会うさまざまなことを深く意識して「五感」を刺激するということです。わたしはドイツ研修に参加し自然療法を

学びました。ドイツでは、温泉だけでなく、空気、太陽、風、森、山、川、海など自然全てを活用した「気候療法」が医学のひとつになっています。わたしは、この気候療法に自然療法を日々の温泉旅に取り入れてみようと考えました。熱海には海も山もあります。海風が吹く時間に海岸を散歩すれば、海洋性ミネラルがたっぷりとそそぎ、リラックスすることが出来ます。温泉街の散歩でも足の裏の感触をしっかり意識して歩くと、脳内ホルモンの活性化につながります。温泉旅は「アース&チャージ」、心身を解放しやすく脱力できれば、自然にいいものがチャージされてくる気がします。



石井宏子 (いしいひろこ)
温泉ビューティ 研究家

温泉と美容の専門家として温泉や旅の新しい魅力を提案。ドイツで自然療法を学び日本人初の「気候療法士」(ドイツ)の研修課程を修了。雑誌、テレビなどで活躍中。著書に「温泉ビューティ」(グリーンキャット)、「癒されてきれいになる おひとり温泉」(朝日新聞出版)など。

熱海大好き！ 温泉万歳！

訪れてよし、
住んでよし。



杉本 苑子

(作家・熱海市名誉市民)

都心から近く温泉も引けると、両親がはやばや熱海に土地を得て、ここが私の終の棲家になった。

身内身内かもしれないが、熱海温泉は温泉街がありながら俗化した感じがなく住み心地もいい。夜の華やぎもあり、食べ物もおいしく、景色も気候もいい。街自体の育ちがいいとも言おうか、人は親切でさっぱりしているし、節度を心得たおつきあいが上手なのありがたい。

訪れて温泉を楽しむもよし、住んでもよしの熱海である。

温泉シャワーが
日課



橋田壽賀子
(脚本家)

我が家にはお風呂が3つあります。眺めがいい檜風呂、ジャグジー、ふつうのお風呂、そのどれもが温泉です。お手伝いさんの手が荒れないようお台所にも温泉専用の蛇口があります。

私は湯船につかるより、きつめの温泉シャワーを当てる方が好きなんです。ドイツのバーデン・バーデンで体験して以来、体にいい気がして15分くらい当てます。朝起きて、運動や犬の散歩の後などにも温泉シャワーです。

景色がいいし緑も多くて静か、東京から帰ると空気がおいしいと感じる熱海には、友人もテレビ局の方々も喜んで来てくださるのが嬉しいです。

熱海
——
幸福の象徴



森村 誠一
(作家)

熱海に仕事場を構えて30年、人生の25分の1ぐらいを熱海で過ごしたことになる。もう「熱海人」と自称できるかもしれない。美しい風景の3条件として、水、緑、山という。熱海はこの3つを揃えている上に温泉、気候温暖、中央へのアクセス抜群、安全となればいうことはない。熱海に過ごせる時間は人生の幸福である。土地それぞれに生活の苦労はあっても、どこへ行ってもついてまわる苦労であれば、住みやすい土地の方が得をするに決まっている。

「是がまあ ついの栖か」は、「雪五尺より」は湯の香りの方がいい。熱海との出会いは、人生最大の幸せである。

湯けむりの妙



中島 潔
(画家)

住み慣れた東京を離れて故郷の佐賀県唐津市で10年ほど暮らし、熱海に来た。熱海は有名な観光地ということもあるが、若い頃に過ごした伊豆の下田に近かったからだ。

いずれ東京にもどるつもりだったが、熱海を離れられなくなった。その訳は、やはり温泉だ。絵の制作で疲れた身体を湯に沈めながら思う。

幸せとは、心と身体の健全さにつきる。

白い湯けむりは、にがい過去も厳しい未来も心地良いものと変える。

温泉で
体を温める



船井 幸雄
(船井本社 会長)

朝飯に5分以上、お風呂に1分以上かける者は我が社にはいらん——そう言って時間を惜しんで働いて会社をここまで大きくしてきたが、70歳で引退して熱海に住んでからは、いくらかお風呂に時間をかけている(笑)。免疫学で有名な新潟大の安保徹教授に体を温めることを勧められてね。ここは70℃を超える温泉だから磁化水でうめて湯船で温まって体調がずいぶん良くなった。

僕は熱海が大好き。年間2000万人が訪れる街にすることは簡単だが、今のさびれている方がいいかも分からないね。

熱海スポット・クイズ

ヨコの熟語を完成させて、
□の漢字をタテに読んでください。
(答えは巻末) 出題/岡田光雄

- 1 □ 勢海老
□ 腐料理
□ 紫水明

- 2 天 □ 恢恢
□ 表取締役
□ 故知新
源 □ 徴収

- 3 □ 善大使
海 □ 浴場
一 般 □ 開
家 庭 菜 □

- 4 一 念 発 □
飛 行 機 □
空 中 楼 □

- 5 徹 頭 徹 □
石 廊 □
千 紫 万 □
金 枝 玉 □



田崎 真也
(ソムリエ)

非日常的 空間の魅力

週2日ほど温泉がある熱海に泊まって真鶴で釣りを楽しむ——そんな生活が1年余り続いた昨半夏、こんなに通うならばと、熱海の住人になりました。熱海は子どもころ家族でよく来た馴染みの温泉場です。景色も空気も海と山のコントラストがはっきりして、緑も多い。地の魚をおいしく食べさせてくれる店、夜遅くまでやっている店もある。温泉で体が温まり疲れがとれることはもちろんですが、東京から1時間足らずで仕事モードからプライベートモードに切り替えられる熱海は、私にとって“非日常的空間”。何よりくつろげるんです。



大塚 実
(大塚商会 名誉会長)

海辺の 景色と温泉

水辺の景色のいいところに昔から憧れを抱いていた私が熱海にホテルを経営して、もうすぐ25年になります。美しい海の景色を見ながら温泉に入るひときは、至福の時間です。温泉が豊富で、海があり砂浜があり、山も川もあり、足の便がいい熱海にはプラスαがいっぱいです。80歳で一線を退き、その後は「美しい自然の保護と再生」がライフワークになりました。大好きな熱海でも、老朽化した梅園の梅を何とかしたい、糸川沿いの熱海桜を満開にしたいという思いで私財を投じています。



鈴木 邦彦
(作曲家)

街に流れる 僕のメロデー

ゴルフ場へのアクセスがよく、東京と行ったたり来たりにも便利な温泉地だからと熱海に家を持って40年。この間に、市内の小学校にミュージックベルを紹介して子どもたちと一緒に音楽を楽しんだり、市制50周年記念事業では、熱海のイメージソング「アタミのスケッチ」を作る機会にも恵まれました。この曲は時報などとともに熱海市広報からの放送で、またエフエム熱海湯河原のお知らせコーナーでも流れるなど、20年以上毎日市民の皆さまに聴いていただいています。熱海温泉とのご縁は作曲家冥利に尽き、いつまでも親密な思いでいられます。



二宮 さよ子
(女優)

お風呂⇨温泉

熱海で生まれ育った私は、沸かすお風呂があることを高校生になるまで知りませんでした。お湯は熱くて塩辛く、6人家族が1人ずつ入っては栓を抜いていました。日本中どここの家もお風呂はこういうものだと思っていましたから、友達の家に行つてびっくり。今思えば、うちのお風呂は湯量も豊富な温泉で、贅沢なことだったんですね。子供の頃、たまに連れて行つてもらう銭湯が温泉だと知ったのも大人になってから。大きなお風呂でプールみたいと楽しかったことが懐かしく、都内に住む今でも、ふと思いついて日帰り温泉に行きます。

熱海スポット・クイズ

ヨコの熟語を完成させて、
□の漢字をタテに読んでください。
(答えは巻末) 出題/岡田光雄

10 千客万商 □
明治神商 □
八百万商 □
総合商 □

9 浅草 □ 苔技月動師 □
陸鳥 □ 競風活 □
消弘 □ 法期 □

8 道草 □ 教育木 □
山草 □ 電陰 □
自弁 □ 保陰 □
健保 □

7 □ 志貫徹 □
三由紀夫 □
牡丹 □ 籠 □
大展望 □

6 国士無敵 □
富有 □
祇園精 □



大和田 獏
(俳優)

宅配温泉

海と山があって、温泉がある——いつか、そういう所
家を持ちたいと思っていました。広いベランダと大きな窓
から見る屋の海と街、そして素晴らしい夜景。1日中眺め
ていても飽きない景色です。
仕事柄、頻繁に来ることができませんから、温泉は宅配
にしました。明日行くという日に電話をして、タンクに入
れおいてもらうんです。熱い温泉が到着した日にちょうど
いい湯加減になっています。
夢を叶えて3年目。「熱海」を少しずつ楽しんでいきます。



戸田幸四郎
(絵本作家)

絵本の発想

熱海にアトリエを建てたのが平成5年であるから、もう
16年も前のことになる。それ以来、絵本の創作は熱海のア
トリエから生まれたことになる。
何故熱海を選ばれたのですか?、とよく尋ねられるが、
気候や風景の素晴らしさは勿論であるが、私は無類の温泉
好きでもあって、温泉に浸かって、リラックスした時こそ
創作の発想をふくらませている掛け替えのない時間である。
私にとっては、絵の具も筆も、お風呂も一体である。



湯川れい子
(音楽評論家・作詞家)

私に欠かせない 熱海の湯

熱海は、まさに日本のサントロペです。
十数年前、C型肝炎治療中に知人から「免疫力を高める
ためには塩湯がいい」と聞きました。仕事で泊まったホテ
ルの温泉が塩湯で、体が温まって熱海はいいな、と思っ
たら、気に入った住まいに巡り会えたのです。
近くの来宮神社には樹齢二千年を超える大きな楠がなお
健在で、お宮にしろみ大国主命が温泉に恵まれ風光明媚な熱海を気に入
られて住居に定めた、という伝説にも頷ける「氣」を感じ
ます。肝炎が完治した今も、私の体には塩分の強い熱海の
温泉と、土地の「氣」が欠かせません。



宮本 勝昌
(プロゴルファー)

蛇口をひねれば 温泉

熱海を離れて暮らして、つくづく熱海っていいところだ
なあと感じます。
実家は水・湯・温泉の蛇口があって、ひねれば温泉。生
まれたときから温泉に入っているわけですから、温泉を意
識したことはありませんが、たまに実家に帰ってお風呂に
入ると、やっぱり温泉は体が温まっていい。熱海に帰った
と実感します。
海、山、温泉、食、それに祭。それぞれ別にも一緒にも
楽しめる熱海です。毎年、試合中で帰れませんが、いつか
また「こがし祭」に参加したいなあ。

熱海の歌

「熱海市歌」は坪内逍遙作詞、弘田龍太郎作曲です。
初島小中学校校歌は阿久悠作詞、三木たかし作曲で話題になりました。
タイトルに「熱海」と入った曲だけでも数十曲。熱海はたくさん歌われています。

- 熱海あたりで
- 熱海エレジー
- 熱海おどり
- 熱海温泉節
- 熱海音頭
- 熱海おんな町
- 熱海恋しぐれ
- 熱海恋歌
- 熱海小唄
- 熱海ざくら
- 熱海殺人事件
- 熱海しぐれ

- 熱海シャンソン
- 熱海城恋唄
- 熱海情話
- 熱海ちよいきな節
- 熱海妻
- 熱海で逢ってね
- 熱海デイト
- 熱海とろりこ節
- 熱海についたら夜でした
- 熱海の雨
- 熱海の駅で
- 熱海の女将
- 熱海の女
- 熱海の女よ
- 熱海の月、お宮の涙
- 熱海の松千代
- 熱海の宿
- 熱海の夕波
- 熱海の夜
- 熱海の夜は更けて
- 熱海節
- 熱海慕情
- 熱海ブルース
- 熱海夜愁
- 熱海湯の町恋の街
- 熱海夢一夜
- 熱海旅情
- 熱海ワルツ

熱海の歴史空間

松田法子

箱根路を我越くれば伊豆の海や

沖の小島に浪のよる見ゆ 実朝

江戸時代の熱海村には、「大湯」という名高い間欠泉を中心に(図1)、これを利用する特権的な温泉宿「湯戸」などが周辺に集まって、

温泉町が形成されていた。湯戸は庶民を泊めるだけでなく、大名や旗本を含め武家の逗留先でもあり、とくに格の高い湯戸である二つの本陣と脇本陣がその役目を担っていた。

熱海村の空間構成を特徴付けていたのは、大湯から浜に向かって村の中心を縦断する「本町通り」であり、その名

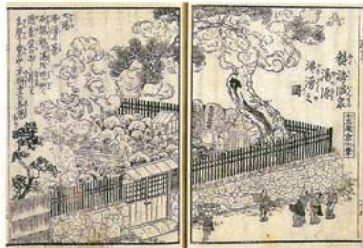


図1 大湯
山東京水画、「熱海温泉図彙」天保3年(1832)より
(古屋旅館 所蔵)

は菱川師宣が描いた熱海最古の一枚刷り絵図にもみえる(図2)。

本町通りの軸を海に向かって伸ばすと、実は初島に突き当たる。つまり熱海村の街路は、道の向こうに初島を望むべく計画された可能性が高い。この計画線を誰が引いたのかはわからないが、江戸時代の熱海村は、沖の小島をよりどころにした空間デザインをもっていたのであった。以下では、熱海を特徴付けるいくつかの軸を抽出しながら、歴史的な空間の様子についてみていこう。

一、熱海を縦にみる

楼と亭

まずは垂直方向を手がかりに、建築に注目して江戸時代の空間構成を探ってみよう。湯戸の屋敷には、眺望を楽しむための特別な建物が備えられていた。それらは「楼」や「亭」という小建築で、敷地の高いところに造られた。なかには京都の清水寺のように、懸造りのものもあった。と



図2 「豆州熱海絵図」
菱川吉兵衛(師宣)画、天和元年(1681)
(熱海市立図書館 所蔵)



図3 一碧楼(画面右上)と二階建て湯戸
「熱海温泉図考」文政3年(1820)より
(武田科学振興財団 杏雨書屋 所蔵)

くに本陣今井家の「一碧楼」と、同渡辺家の「一色亭」は、江戸でも噂にのぼるほど有名であったという(図3)。登楼した浴客は、中国の「瀟湘八景」などに題材をとりながら、漢詩や和歌に熱海の景色を詠んだ。楼亭では、きわめて文化的なもてなしが繰り広げられていたのである。

多層化する旅館群

江戸時代に二階建てが許された建築は、特別なものに限られた。熱海村の場合には湯戸だけが二階を造ったが、それは江戸城に大湯の温泉を運ぶ「御汲湯」という役の見返りに、湯戸が獲得した特権であったと伝わっている。さて、楼や亭などによって特別な視覚を確保する湯戸のような建築は、明治期以降どうなっていたのだろうか。

維新後には湯戸の特権が解体されたことで、二階を普請する者がただちにあらわれ、海を見晴るかす眺望はほとんど

ん大衆化していった。多くの旅館がその眺めの良さを売りにするようになったのである(図4)。

山の手の分譲地開発

次に、市街地形成の様子から垂直方向の展開をみていこう。結論からいえば近代熱海の市街地は、眺望の獲得を指して山の手へと拡大していった。とくに昭和初期には、東海道線の開通によって熱海に対する投資が増大し、全国の資産家らが広大な土地を所有する。山の手の土地は切り開かれ、別荘や旅館向けに大々的な分譲地造成が行われた。建物が丘陵を埋める現代熱海の景観の骨格は、ここに形作られたのである。

温泉源開発

熱海の市街地空間にとりわけ特徴的な垂直方向の動きとしては、地下の様相をみおとすことができない。つまり、温泉源開発の展開である。昭和11年までに熱海の地に穿たれた温泉掘削孔は百箇所以上で、なかには深度が400メートルを超えるものもあった。

江戸時代の熱海村において、営業的な温泉利用は大湯を



図4 旅館「釜成屋」の屋上
(谷口崇氏所蔵絵はがきより)

使う湯戸と、いくつかの商人宿に限られていた。熱海村には、大湯のほかに「熱海七湯」と呼ばれる温泉源があり、そのうち「河原湯」や「清左衛門湯」など一定の入湯利用が行われていたものもあったが、総じて温泉の利用度が高いとはいえなかった。温泉の自由な利用や開発も、二階建ての普請と同様、やはり明治期以降に湯戸の特権が失われたことで可能になったのである。

明治中期頃に熱海は一大別荘地となるが、これら別荘所有者による開発が盛んに行われたことも特徴である。

その結果、大湯は大正末期に枯渇してしまった。某男爵が掘った温泉源が、大湯の湧出に影響を与えたことが主な原因とされる。伝統的な熱海村の空間と社会を支えてきた資源は、ここに失われた。

しかし逆説的にも熱海は、大湯が枯渇したことによってむしろ、大規模な温泉観光都市に飛躍する端緒を開くのである。つまり、大湯を保護するためにそれまで規制されていた温泉源開発が許可されるようになり、より多くの旅館やホテル、宅地開発業者が流入して、熱海の各所で事業を展開していった。

二、熱海を横にみる

市街地を縁取る別荘群

人気を集めていった。

海岸通りの旅館街

近代熱海における水平方向の広がり、山の手のほか、とくに海岸線沿いに著しかった。近代の保養都市には洋の東西を問わず、ウオーターフロントの立地を求めて建物が水際に張り付いた結果、町が線状に伸びる類型が非常に多く、熱海もこうしたタイプに属する。熱海における海浜旅館のはじまりは、明治初期に漁家や廻船業者が自家の宅地で旅館を創業したことによる。大正から昭和初期には、海岸線沿いに大型で多層の旅館が軒を連ねるようになった。海岸通りに大規模旅館が偉容を誇るさまは、当時浴客数などの多さで熱海としてのぎを削った別府にも共通する。

大熱海の成立

温泉観光業を中心に規模を拡大していった熱海町は、昭和12年に熱海市に昇格した。市となるための人口条件を問う事前調査では、町に一次的に滞在している浴客も人口に含まれる統計資料があり、興味深い。たしかに熱海とは、常に観光客を含んでその全体が成り立っている町なのである。

市政施行までに旧熱海村および熱海町は、伊豆山、泉、初島、多賀の各村を、戦後には網代町を合併して、地理的規模も拡大していった。ここで、温泉場としての性格に限っ

次に、水平方向の広がりをキーワードにして熱海の歴史空間をみていこう。

先にも少し触れたとおり、明治中期の熱海では空前の別荘建設ブームが巻き起こった。別荘の所有者は、松方正義や後藤新平など明治政財界のそうそうたる顔ぶれであった。これらの別荘は、集落中心部のほか、その縁辺にも立地していた。広い敷地と閑静な環境の確保が求められたゆえであろうが、別荘の郊外立地は、明治期熱海の市街地を拡大していくことになる。

庭園と旅館

別荘にやや遅れて、大正期以降には旅館の郊外立地が進む。その動機は主に二つあった。一つは旅館の格の表現に、もう一つは庭園を備えることに関わるものだった。格式が高い旅館の伝統的な類型とは、門を構えて塀をめぐるせ、主屋を道から奥まって建てる今井家や渡辺家のようなものであった。これら本陣の配置形式は、熱海における高級旅館の先行類型だったのである。このような配置構成を実現するためには、郊外に広い敷地を確保することが条件となる。熱海における多くの温泉旅館はもとも、街道沿いの旅館のように直接道に面して主屋を建てるものであったが、とくに大正期以降には、広い前庭を備え、各客室棟を独立した離れのように配置する、別荘のような雰囲気旅館が

て各地域の歴史に触れておこう。

伊豆山は、伊豆山神社への信仰から古くより栄え、霊泉「走り湯」が湧出する。江戸時代以降、温泉場としては熱海村が発達していくが、室町時代などに「熱海」といえばむしろ伊豆山を指したようだ。近代には千人風呂や滝湯などを売り物にする温泉旅館が営業する。

網代村は江戸時代にきわめて豊富な漁獲高を誇った漁村で、ここで獲れた魚は江戸にも多く出荷されていた。近代にも漁業集落としての特徴は失われなかったが、巨大温泉町に変貌していく熱海に接する土地柄、温泉観光地としての性格も打ち出していく。多賀では大正末期に医師による掘削が行われたのを嚆矢に、昭和12年にはより有力な湯脈が発見されて、網代駅を最寄りとする温泉旅館街を形成し、網代温泉のち南熱海温泉と称した。泉は、湯河原温泉と川を挟んで向かい合う立地に加え、拡大する熱海との関係から、昭和初期には繁華な料理屋街も形成された。

三、熱海の歴史空間を歩く

さて、ここまでみてきたような熱海の歴史的足跡を、現代熱海の都市空間にみいだすことはできるのであろうか。以下、そのみつけ方と歩き方について記しておこう。

ここに挙げたのは、江戸時代の湯戸の立地図である



熱海図書館
温泉コーナー

熱海図書館で熱海を知る

大正4年、熱海在住の作家・坪内逍遙ほか有志の寄贈図書5,657冊をもとに熱海図書館はできました。現在約17万冊の蔵書があります。太宰治、志賀直哉、広津和郎、谷崎潤一郎……多くの作家が熱海に住んだり、訪れて小説を書いています。また、熱海を舞台にした作品もたくさんあります。

図書館オススの本

- 熱海温泉図会／豊島海城 亀谷竹二 明治21年
- 熱海温泉案内／樋口貞二郎 気象万千楼 明治24年
- 熱海鑑泉誌／青木純造 内田市郎左衛門 明治29年
- 熱海錦囊／斎藤要八 芹沢政吉 明治30年
- 熱海と五十名家／斎藤和堂 富永寛明 大正9年
- 熱海ペーチェント／坪内逍遙 大正14年
- 熱海閑談録／藤山雷太 中央公論社 昭和13年
- 大湯 熱海温泉の歴史／秋本平十郎 内田勇次 講談社 昭和37年
- 熱海市史 上・下 資料編／熱海市 昭和42～47年
- 熱海殺人事件／つかこうへい 新潮社 昭和53年
- 熱海風土記 正・続／山田兼次 伊豆新聞社 昭和53・54年
- 明治の古典2 金色夜叉／森敦 訳 学習研究社 昭和56年
- 錦ヶ浦殺人事件／島田一男 光文社 昭和61年
- 熱海伊豆山殺人事件／島田一男 光文社 昭和62年
- 市制50周年 熱海を語る 明治・大正・昭和写真史／熱海市 昭和62年
- 闇を裂く道 上・下／吉村 昭 文藝春秋 昭和62年
- 熱海物語／太田君男 図書刊行会 昭和62年
- 熱海百話／山田兼次 熱海青年会議所 昭和63年
- 熱海・黒百合伝説の殺人／深谷忠記 光文社 平成6年
- 熱海市制施行60周年記念 熱海歴史年表／熱海市 平成9年
- 熱海連続殺人事件／五十嵐均 夏樹静子 森村誠一 文藝春秋 平成11年
- 熱い海 春酒屋お花一代／工藤美代子 平凡社 平成11年
- 幻の人車鉄道／伊佐九三四郎 河出書房新社 平成12年
- 温泉主義 特集 熱海温泉／松田忠徳 くまざ出版 平成17年
- 初島／高野 新 平成18年
- 熱い海のものごと 熱海の昔ばなし／熱海青年会議所 平成18年
- 熱海市制施行70周年記念 熱海平成歴史年表／熱海市 平成19年
- ぶらりぶらぶらクレヨン王国／福永令三 講談社 平成19年
- 熱海温泉 湯けむり万華鏡／小林米男 平成20年
- 伊豆山神社の神様のひみつ／伊豆山神社 平成20年

閉架書庫の本についてはカウンターでお問い合わせください。

熱海市立図書館 熱海市上宿町14-20 TEL.0557-86-6591

写真 平岡郁男



図5 江戸時代における湯戸の立地
〔豆州熱海絵図〕を元に筆者作成。▲は湯戸以外の家を示す。

(図5)。「ゆます」がある温泉町中心部の十字路は、現在ニューフジヤホテル、静岡銀行、内田耳鼻咽喉科が建つ交差点である。前述の本町通りは、今の銀座通りにあたる。最上格の本陣、今井家があったのは現ニューフジヤホテルの敷地で、その一角には今も大湯の跡をみることが出来る。徳川家光がかつて営んだ御殿は、現市役所の敷地にあった。同じ場所には明治期に御用邸も造られた。

明治から大正期熱海の特徴は、まず大別荘地だったことであるが、それを偲ぶさすがには起雲閣が最上であろう。また熱海駅近くの海側斜面に立地する旧日向別邸は、日本の近代建築に大きな影響を与えたドイツ人建築家、ブルーノ・タウトの設計である。梅園は、別荘の建設が盛んになり始めた明治19年の造営であり、近代医学の確立に貢献した長与専齋が提唱し、横浜の生糸商が出資した。ここには、温泉場が経験していった近代の香りが色濃く漂っている。熱海にはまだまだ、無数の歴史とそのエピソードがある。絵図や古写真を手にとり、魅力的な歴史空間を探してみたいかがだろうか。

松田法子(まつだのりこ)

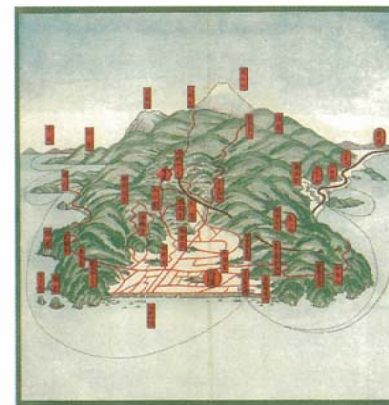
1978年生まれ。学術博士。京都府立大学人間環境科学研究科博士後期課程修了。東京大学工学系研究科客員研究員を経て、現在、日本学術振興会特別研究員(東京大学工学系研究科在籍)。大妻女子大学非常勤講師。



熱海温泉組合 熱海市中央町1-32 TEL.0557-81-2324
 熱海伊豆山温泉組合 熱海市田原本町9-1 熱海第一ビルB1 TEL.0557-81-2631

Quiz 熱海スポット・クイズ解答

1 伊豆山 2 網代温泉 3 親水公園 4 起雲閣 5 尾崎紅葉 6 双柿舎 7 初島灯台 8 徳川家康 9 海上花火大会 10 来宮神社



郷土史研究家・谷口崇氏 所蔵 大正14年頃の旅館案内より

編集後記

「熱海」の歴史がそのまま「温泉」の歴史と言っても過言ではないと思います。古来、万葉の頃から詠い親しまれてきた風光明媚で気候温暖な「熱海」は、多くの人に愛され、湯治場として栄えてきました。それは、この地の温泉の質がすばらしく良かったからにほかなりません。

温泉に蘊蓄も解説も要らないという人もおられるかもしれませんが、小誌を旅のお伴にいただければ幸いです。

快くご執筆を承諾くださった石川理夫先生、石井宏子先生、松田法子先生、また、時間と誌面に限りある中で、今回ご縁があって「熱海大好き!温泉万歳!」にメッセージをお寄せくださった皆さま、この本を手にしてくださった皆さまに心から感謝申し上げます。

NPO法人エイミック理事長、温泉療法医
 内田 實

温泉万歳

平成21年11月3日 初版 第1刷発行

- 発行 / 熱海市観光経済部観光課
熱海市中央町1-1 TEL.0557-86-6195
- 企画制作 / 特定非営利活動法人エイミック
熱海市上宿町4-1 内田ビル TEL.0557-85-3253
(NPO法人エイミックは温泉と医療を通して熱海の活性化に貢献することを目的に、行政・各種団体の協力を得て活動しています。)
- 表紙デザイン / 坂本武典
- 編集・構成 / 耕田豊美(NPO法人エイミック)
- 印刷・製本 / 株式会社 木村印刷所 DTP / 松下明日香 イラスト / 山口綾子



熱海市観光経済部観光課

〒413-8550 静岡県熱海市中央町1-1
<http://www.city.atami.shizuoka.jp>